

研究指導教員の決定方法について

化学工学分野 博士前期課程

■研究指導教員の役割

1. 研究指導教員は、研究指導教員の専門分野、学生の希望する研究課題、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究を指導する。
2. 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要な授業科目について、指導する。
3. また、研究指導教員は学生の進路に関し、助言する。
4. 副指導教員は必要に応じて研究指導教員を補佐する。

■研究指導教員の決定プロセス

1. 博士前期課程志願者は、募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員への研究室訪問や面談を行い、出願書類の志望理由書に「入学後の研究希望内容」を記載する。
2. 出願書類をもとに、分野教授会において研究指導教員1名以上を入学時まで決定し、志願者に通知する。志願者の希望を受け入れることが困難な場合、関連する研究分野の教員と学生が面談を行い、志願者の希望を再度確認した上で研究指導教員を決定する。また必要に応じて副指導教員を決定する。
3. なお、研究の進捗等に応じ、研究指導教員（必要に応じて副指導教員を含む）を変更することがある。

■研究指導計画

1. 研究計画の立案（1年次4月～5月）
 - (1) 学生は、決定した研究課題に関して先行研究の整理、仮説の設定を行い、研究計画を立案し、研究指導計画書としてまとめる。研究指導教員（必要に応じて副指導教員を含む）は、研究指導計画書を確認する。
 - (2) 研究指導教員（必要に応じて副指導教員を含む）は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法・文献検索方法・文献読解方法などを指導する。
2. 研究の遂行（1年次5月～2年次12月）
 - (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行し、得られた結果をまとめ、研究指導教員（必要に応じて副指導教員を含む）に定期的に報告する。
 - (2) 研究指導教員（必要に応じて副指導教員を含む）は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査方法、結果のまとめ方、および、考察の仕方などを指導する。
3. 研究経過の中間報告
修士研究の経過について、分野全体の中間報告会を実施することがある。その際、研究指導教員以外の分野教員からも指導や助言を受ける。
4. 研究指導報告書の作成（2年次12月～3月）
研究指導報告書は、学生が記入する研究実施報告（研究指導計画に沿って、進捗状況、

実績、成果等を記載)と指導教員が記入する研究指導報告(学生の実施状況、指導内容、指導結果、指導計画の変更等を記載)から構成される。学生は研究実施経過を記入のうえ、研究指導教員に提出する。研究指導教員(必要に応じて副指導教員を含む)は、学生からの研究実施報告を確認の上で、学生と十分な相談・打合せを行い、研究指導実施報告を確認する。

5. 修士論文の作成(2年次12月～2月)

- (1) 学生は研究成果をもとに修士論文の作成を開始し、研究指導教員(必要に応じて副指導教員を含む)のもとで修士論文をまとめる。
- (2) 研究指導教員(必要に応じて副指導教員を含む)は、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。

6. 学位授与申請(2年次1月～2月)

学生は修士論文要旨などを指定した期日までに提出する。

7. 修士論文発表会(2年次2月～3月)

修士研究で得られた成果について、発表会(秘密会)を実施する。発表会では、分野教員から指導や助言を受ける。

8. 修士論文の提出(2年次2月～3月)

学生は修士論文や要旨を指定した期日までに提出する。

9. 修士論文の審査(2年次2月～3月)

学位論文審査委員(主査、副査)を決定し、修士論文、要旨、および修士論文発表会の内容を審査し、工学研究科主任会議で審議する。

研究指導教員の決定方法について

化学工学分野 博士後期課程

■研究指導教員の役割

1. 研究指導教員は、研究指導教員の専門分野、学生の希望する研究課題、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究を指導する。
2. 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要な授業科目について、指導する。
3. また、研究指導教員は学生の進路に関し、アドバイスする。
4. 副指導教員は主任指導教員を補佐する。

■研究指導教員の決定プロセス

1. 博士後期課程志願者は、募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員への研究室訪問や面談を行い、出願書類の入学願書に「指導を希望する教員名」、志望理由書に「入学後の研究希望内容」を記載する。
2. 出願書類をもとに、分野教授会において研究指導教員1名以上を入学時まで決定し、志願者に通知する。志願者の希望を受け入れることが困難な場合、関連する研究分野の教員と学生が面談を行い、志願者の希望を再度確認した上で研究指導教員を決定する。また必要に応じて副指導教員を決定する。
3. なお、研究の進捗等に応じ、研究指導教員（必要に応じて副指導教員を含む）を変更することがある。

■研究指導計画

1. 研究計画の立案（1年次4月～5月）
 - (1) 学生は、決定した研究課題に関して先行研究の整理、仮説の設定を行い、研究計画を立案、研究指導計画書としてまとめる。研究指導教員（必要に応じて副指導教員を含む）は、研究指導計画書を確認する。
 - (2) 研究指導教員（必要に応じて副指導教員を含む）は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法・文献検索方法・文献読解方法などを指導する。
2. 研究の遂行（1年次5月～3年次10月）
 - (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行し、得られた結果をまとめ、研究指導教員（必要に応じて副指導教員を含む）に定期的に報告する。
 - (2) 研究指導教員（必要に応じて副指導教員を含む）は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査方法、結果のまとめ方、および、考察の仕方などを指導する。
3. 研究経過の中間報告
博士研究の経過について、分野全体の中間報告会を実施することがある。その際、研究指導教員以外の分野教員からも指導や助言を受ける。
4. 研究指導報告書の作成（3年次12月～3月）研究指導報告書は、学生が記入する研究実

施報告（研究指導計画に沿って、進捗状況、実績、成果等を記載）と研究指導教員が記入する研究指導報告（学生の取組み状況、指導内容、指導結果、指導計画の変更等を記載）から構成される。学生は研究実施経過を記入のうえ、研究実施報告を研究指導教員（必要に応じて副指導教員を含む）に提出する。研究指導教員（必要に応じて副指導教員を含む）は、学生からの研究実施報告を確認の上で、学生と十分な相談・打合せを行い、研究指導実施報告を確認する。

5. 博士論文の作成（3年次10月～12月）

学生は研究成果をもとに博士論文の作成を開始し、研究指導教員のもとで博士論文をまとめる。

6. 博士論文の予備審査

博士研究で得られた成果に応じ、主査候補教授1名と副査候補教授2名以上を決定する。主査および副査候補は博士論文の提出まで予備審査を実施し、問題点を指導、助言する。

7. 学位授与申請（3年次1月～2月）

学生は博士論文や要旨などを指定した期日までに提出する。

8. 学位論文の審査（3年次1月～3月）

学位授与の申請が受理されたとき、工学研究科主任会議で、学位論文審査委員会を設置する。学位論文審査委員会は、学位論文を審査するとともに、公聴会や最終試験を実施する。